



令和8年
(2026年)
6月号
Vol.78

もとのき

(社会福祉法人愛の森広報紙/一般用)



書道教室[5月19日(火)]

[発行]社会福祉法人愛の森(厚木市森の里青山14-2(Tel:046(248)5211)) [編集発行責任者] 國分 隆之

「推し」、「観察」、「ナイチンゲール」

学園のお昼。利用者さんのお食事支援が終わったあとの職員ランチタイムでよく見る風景。何人かの職員が誰かの話題で盛り上がっています。主語も目的語も曖昧な日本語特有の会話ですから、部外者には誰のことだかわかりません。「〇〇のときはよかったよね～、☆☆したらとても楽しそうにしてくださった。◇◇したらもっと喜んでもらえるかも…」的な😊。

「〇〇」だの「☆☆」だのとうまく伝わらなくて恐縮ですが、「推し」についての会話みたいにも聞こえます。私は新聞を読みながらの昼食で、別に聞き耳をたてているわけではありませんが(笑)、情景がとても細やかで、よく「観察」しているもんだなあ、と…。

ゴールデンウィーク。いつもよりゆっくり起き、朝の連続ドラマをなんとなく眺めながらの朝食(@自宅)。日本初の看護学校で生徒さんたちがナイチンゲールの本を英語で読んで、「observe」をどう訳すのか、苦勞されていました。ナイチンゲールの原著によれば(正確には、最近我がパソコンに宿っておられるAI様によれば💡)、「obsreve=観察」は、単なる視覚的な概念ではなく、『患者の状態や変化を読み取る、洞察を伴う観察』、即ち『「見る(視覚)」、「気づく(注意)」、「考える(判断)」、「伝える(報告)」等を含んだかなり厚みのある概念』のようです。

「支援」の世界に「ナイチンゲール」がおられるのかは浅学にして存じ上げませんが、患者さん・利用者さんという「人を対象とするプロフェッショナル」という意味では根っこで繋がっている話だと思います。冒頭の会話、我が学園にもナイチンゲールの遺伝子を持った人たちがいるかも、と一寸ほっこりした気持ちになったGWのひとつきでした。 [國分 隆之]

[畑女子!]

4年目の農福連携事業、キックオフ! : 5月8日(金)

森の里地区等でご活躍の高村真和議員が、地域や近隣企業様などのご縁を築いて下さって始まった「農福連携事業」も早や4年目。皆様、本当にありがとうございます。

関係者集っての今年度初回の活動は、例年どおり夏野菜の苗の植付け。農作業日和に恵まれたこの日、地域の常連メンバーさんとともに、ナス、ピーマン、唐辛子などを植えました。

学園参加者のなかで昨今特にその活躍が目立ってきたのは「畑女子」の皆さん。苗を見るだけで野菜の名前を即座に口にされるなど、「菜園での才媛ぶり😊」を発揮されています。

「菜園女子」の活躍に男性利用者さんも刺激され、あっという間に作業は完了。植えた苗の前で記念撮影をしました。今年も?🌞猛暑🌞が予測されますが🐱、元気よく育って、美味しい実をたくさんつけてほしいと願うばかりです。 [久々の のうえんぶちょう]



[コロナ禍後初!]**7年ぶりの「ふれあいフェスティバル2026」に参加：5月9日(土)**

ふれあいフェスティバルは、厚木市内の障害関係事業所団体が主催し、利用者さん・職員が地域の方々と一堂に会するビッグイベントとして、平成9年5月から開催されて参りました。しかしコロナ禍の関係で令和元年5月を最後に休止され、今回実に7年ぶりの開催となりました。

コロナ禍後の各種イベントがそうであるように、この「ふれフェス」も、その開催方法が大きく見直されました。従前は昼食をはさんで、午前午後にまたがるアトラクションを楽しみ、また、各事業所が利用者さんとともに露店を出したりもしておりましたが、今回は、車いすで参加の利用者さんも少なくなく、また、各事業所の職員不足などもあるなかでの取組みとなり、午後のみの開催として、若干コンパクトな内容にリニューアルされました。

若い利用者さん・職員が大挙して集結し終日大いに盛り上がっていた昔を知るベテラン職員からみれば時代の変化を感じざるを得ないところもありますが、我が学園からは今回8名の利用者さんが参加し、バルーンアートやジャグリング、先日学園の「春の会」でも私たちを楽しませてくださった地元フォークデュオ「マナカマサ」さんによる歌謡ショーなど、見るのも聞くのも楽しいひとときとなりました。

福祉業界に限らず、ポストコロナ禍・高齢化・人手不足等の変化を踏まえ、各種イベントは見直しが必要な昨今、持続可能で楽しいイベントの在り方を考える機会にもなった一日でした。

**[用意周到!]****今月のホリデー日課は夏に向けての「風鈴づくり」：5月23日(土)**

夏の季語でもある「風鈴」。暑い夏が来る前に「涼しい音色」の風鈴をつくってみよう、という若手職員の周到かつ秀逸な企画により、今回のホリデー日課は、「風鈴づくり」。

まずは風鈴の外身を装飾すべく、紙コップに絵を描いたり、シールを貼ったり…。思いのままの装飾やお絵かきは、利用者さんのお手のもの。それぞれのお好みに紙コップを装飾し、個性的な風鈴本体が出来上がっていきます。

本体ができると次は短冊に願いごとを…。「皆が元気ですごせますように」など、何とも素敵で思いやりのある願いごとを書いてくださる利用者さんもおられ、思わずウルとする職員。

最後は、利用者さん自ら、あるいは職員に手伝ってもらって紙コップ、鈴、短冊、に糸を通して出来上がり！

かわいい風鈴が暑さを癒し、そして短冊に書かれた願いが叶いますように！



[キックオフ!]**今年も元気に日帰り旅行! ~ 第1弾はサファリパーク: 5月21日(木)**

入所・通所・GHの各利用者さんを6組に分けて行う学園恒例の「日帰り旅行」。今年のキックオフは入所グループ第1組が「富士サファリパーク」へ! 利用者さん(10名)、職員(5名)に加え、保護者・後見人様が8名も参加してくださり、近年では最大規模の23名参加となりました。

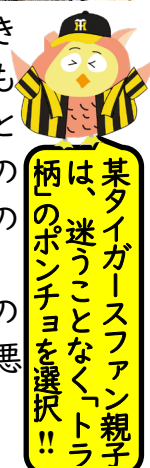
この「もちのき」でも何度か取り上げましたが、この日のスタッフには愛の森史上最強の「雨男」改め「嵐を呼ぶ男」がいたため、お約束のような 🐱 お天気 ☔ 🌀 となりましたが、学園の実情をよくご存じのいつもの運転士さんによる安全運転のなか、旅行は始まりました。

雨の東名を西走し、足柄サービスエリアで休憩をとるころの裾野界隈は霧に包まれ辺りは真っ白 🌨️。「動物見えるかな?」など、「嵐男」への冷たい視線(笑)も飛んでいましたが、無事富士サファリパークに到着!



サファリゾーンを走る「動物バス」は側面が網状で雨が吹き込むため、急遽「シマウマ」「きりん」「とら」の柄のお好な「アニマルポンチョ」を選んでいただき、いざ出発! 雨は続くも心配していた霧はおさまり、ゾーン内を自由に闊歩する動物たちをじっくり観察することができました。なんでもネコ科の動物は雨の方が活発になるそうで、ライオンなど沢山の動物が我々を出迎えて下さいました。近距離で動き回る動物のあまりの迫力に「驚愕!」の利用者さんも…、動画撮影に夢中の親御さんも…、皆さん童心に返って楽しみました。

お昼は名物のヒレカツカレーをお腹一杯食べ、帰りの出発までの時間はお土産購入等の定番フリータイム! 例年の旅行同様、皆さんしっかり楽しみました。ご家族からは、「(悪天候が)逆に良い思い出になりました!」との暖かいお言葉もいただき、今年度第1回の日帰り旅行は、多人数参加で賑やか、かつ、楽しく終えることができました。



某タイガースファン親子は、迷うことなく「トラ」のポンチョを選択!!

**[楽しい意思決定支援!]****今年度もガイドヘルパーの充実を: 4月~****ちょっとしたデータも、継続してとれば「エビデンス」(^^) ~ 外出データ**

「もちのき」でも折に触れてご紹介させていただいておりますが、入所部門では、高齢化等も進むなか、近年、外出機会創出を常に意識することとしており、なかでも「意思決定支援」充実の一環としての「ガイドヘルパー」には近年、特に力を入れる必要を感じています。

2~3年前だったと思いますが、改めて全入所利用者さんにつき、「帰省」、「グループ外出・ドライブ」、「ガイドヘルパー」から成る外出データを整理してみたところ、要望の表出が少ない利用者さんを中心に、外出が非常に少ない利用者さんがおられることに改めて気づきました。以来毎月のデータ集計を継続しています。「外出回数」というさもないデータですが、蓄積し、しっかり共有・分析すればそれはエビデンスであり、得るものが多い、という例だと思っています。

(次ページに続く。)

楽しい「意思決定支援」としてのガイドヘルパー ～ ネットも駆使して一緒に企画！

「外出」のうちで特に「ガイドヘルパー」は、利用者さんがお気に入りの職員とマンツーマンで行きたいところでしたいことをするものです。昨今の支援上の重要テーマの一つである「意思決定支援」の具体的取組みの一形態となります。

「どこに行きたい?」「何がしたい?」「何が食べたい?」「何が欲しい?」「誰と行きたい?」…。まずは、利用者さんと職員での作戦会議!

口頭でご希望を仰る方、言葉以外のコミュニケーション手段で伝える方、人に伝えるのが得意でない方、十人十色の個性です。職員側から新しいアイデアをご紹介しますときは、絵、写真、

YouTubeなども駆使します。人間だれしも全く見聞きしたことのないものを選択することはできないので、とにかく新しい体験を提案するためには、動画・ネット等の活用も有効です。



「近場」、「遠く」などをとり混ぜ、できる限り「わたしだけの個別外出」を目指します！

いろいろ企画検討し、諸調整した結果として、結局一番多いのは近隣での買い物と外食、ということにはなりますが、幸い、市内及び周辺には手ごろで美味しいお店がたくさんありますので、それはそれで結構ご満足いただけていると思います。

いまは、メニューや食材も事前にネットで見るができますので、想像が膨らみます。予習を経て!、お店で改めてメニューを吟味中のお姿、美味しさMAXのお顔、満福でご満足なご様子、などは、学園内で拝見するのとはまた一味違う、それぞれの自己実現の素敵な場面!

昨年度は、遠方への取組みとして、有志連合による「集団ガイヘル」でディズニーランドにも行きました。人手不足の昨今、通常業務のシフトを回すのが結構厳しい日もあるため、企画ができてもお待たせすることもあります。近場は勿論、一寸難しい企画にも、利用者さんとともに考え、できる限りトライしていく所存です。



○ 法人設立から間もなく40年。利用者さんの高齢化や施設の老朽化等が進むなか、私たちは、障害者総合支援法等に基づき国・自治体から支払われる報酬をベースに、出来る限りの経営努力を行いつつ、利用者さんの安全で楽しい毎日のための諸取組みを積極的に行っていきたいと考えています。

○ 一方、当法人の事業にご賛同いただき、ご支援いただける方からのご厚志はありがたくお受けしています。当法人では皆様からのご厚志(寄附金)は他の事業経理と区分して管理しています。皆さまのご厚志は、利用者さんの生活をより豊かにするためのサービス提供や、中長期的な施設建設積立などによりのみ充当され、一般的な事業経費には流用されません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【寄附金についてのご照会窓口：(福)愛の森総務課(Tel:046-248-5211(代表)、担当:武藤・國分)】

【寄附金受入管理専門口座：ゆうちょ銀行 / 記号 10950 / 番号 39350301 / 口座名義 77アイ/リ】

【領収証の送付手続き等もありますので、電話かメール(info@ainomori.or.jp)でのご一報も頂けると幸いです。】

